

発言No. 2

受付No. 8

令和4年2月15日

10時15分 受付

会 派 代 表 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 14 番

氏名 布施 賢司

答弁を求める者
(○をつける)

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

14 番議席の布施賢司でございます。

私は、会派・超党みらいを代表して、令和4年度の久保田章市・浜田市長の施政方針、そして岡田泰宏・教育長の教育方針に対し質問を致します。

先の選挙で初当選された1人を迎え、超党みらいは6人で新たなスタートを切りました。私たちは、支持を頂いた市民の負託に応えていく責任と信念を持ち、これまでに培ってきた地域活動や、企業で育んできた知識や経験などを踏まえ、これから目指す浜田の未来について、社会の変化や地域動態の変転に取り残されないよう、広域的かつ多角的な視点を持ちながら、市民の幅広い意見を反映させ、少数意見に対しても真摯に受け止め、「市民ファースト」で市政に対して施策提言を行ってまいります。

1：新型コロナウイルス感染症関連の浜田市支援策について

令和2(2020)年から続く新型コロナウイルス感染症の影響は、今年に入ってからオミクロン株が猛威を振るい、全国的に第6波が発生しコロナ禍は収束しそうになく、市民生活や地域経済に大きな影響を及ぼしています。浜田市では市長が先頭に立って発生から現在まで感染対策を呼び掛ける一方、市民生活や経済活動に対する支援については、第10弾までスピード感を持って対応して頂いておりますが、島根県は「まん延防止等重点措置」が2月20日まで適応されており、飲食店の営業や市民活動がさらに制限されています。コロナ禍で経済活動、市民生活、文化活動、子育て、福祉等について疲弊している、困っていることなど、関係団体の聞き取り、広く市民に呼び掛けるなど状況を把握し、支援に漏れはないか、今一度精査し、次の支援策を打ち出す必要がありますが、ご所見を伺います。

2：持続可能な水産業の振興について

- ① グローバル市場の衛生意識や国内ニーズの製造加工環境をふまえた、高度衛生管理型荷さばき整備について7号が完成稼働し、現在、4号の整備が進められています。

水産振興を進めるためには、整備にあわせて、水産物製造企業や物流企業へのハサップ（危害分析重要管理点）によって衛生管理整備と体制が同時に進められていると認識していますが、現在の取組状況と今後の見通しについて伺います。

- ② ハサップ体制にあわせて評価を受けているふるさと納税返礼品や、食品製造における商品開発など、ものづくり支援の状況と市場評価について伺います。
- ③ 昨年度水揚げ高は、まき網漁船の事故があり、1ヶ統を欠きましたが、前年度をやや上回りました。あの事故がなければ、40億円を軽く超えていたと思われます。施政方針によると、島根県と連携して新船建造とありますが、そのスケジュールを伺います。また、残りの3ヶ統の底引き網漁船については、どうなるのか伺います。
- ④ 新型コロナの影響から、瀬戸ヶ島埋立地を利用した陸上養殖事業の動向を危惧するところです。すでに当該地周辺では他の施設が建ち、計画に関連する新たな事業の展開が予想されるなど期待できるものですが、WEB会議などを通じて、中断している共同研究を少しでも進展させることもできるのではないか、現状認識を伺います。

3：農林業の振興について

- ① 儲かる農業の実現に向けて、「みどりの食料システム戦略」による有機農業の振興策として取組面積の拡大を図ることは、荒廃農地等の課題解決には有効な対応策と考えます。この度、島根県と浜田市、井関農機が有機米作りに関する連携協定を結ばれましたが、その具体的な目標と戦略について伺います。
- ② 農業の担い手不足が大きな課題となっています。現在第5期中山間地域等直接支払制度において集落機能強化加算措置が示されています。その事業概要や助成対象者について伺います。
- ③ 有害鳥獣の被害の防止対策において、第5期中山間地域等直接支払制度を活用した集落ぐるみのモデル集落の育成や、ドローンのほかスマート捕獲にも取り組まれています。狩猟者育成は、昨年、猟友会より島根県西部地区有害鳥獣捕獲研修センターの設置を求める請願が市議会に出されており採択しました。これまでの取組状況と成果について伺います。
- ④ 「伐って・使って・植えて・育てる」森林の循環利用の推進は、地球環境にやさしく、山林や里山の水源涵養状態からの水害などの防災、海辺の環境対策にもつながります。また、儲かる林業の取組はSDGsの観点からも、大変重要な施策と考えています。昨年関係団体から、林業・木材産業の活性化の要望書が出されていますが、森林環境譲与税を有効活用し、森林整備や人材育成、公共建築等への市産材活用など促進に向けた具体的な振興策を伺います。

4：商工業の振興について

① 高齢化と少子化から事業承継においても厳しい状況にあります。

これまで中小事業者支援に対しての事業承継サポートについて、各機関などと連携して、相談や紹介など、創業を目指す起業家とのマッチングを、今後もさらに続けて行く必要があります。実務的指導者と経営体制支援が求められるほか、支援体制と事業承継の協力者集めについて、今後どのように推進されようとするのか、方策について伺います。

② 現状、町なかの商環境は「厳しい」の一語につきます。商店街の食料品店や生活用品店の相次ぐ閉店から、中心市街地においても、お年寄りを中心に買い物難民化しつつあります。浜田市においては地産地消の推進と経済循環を図る BUY 浜田運動を推進し、BUY 浜田昼市も時々開催していますが、若者の空き店舗の利用促進の支援や、人が集まる仕組みづくりなど、新たなまちの賑わいを創出する活動の支援は必須と考えます。一つとして浜田市版「楽市・楽座」、市内の商店街で複数個所、定期的に開催できるように側面支援するべきだと考えますが、ご所見を伺います。

③ 新型コロナの影響を受けている事業所に対して、浜田産品の販路開拓及び拡大の売り込みに対して、新たに WEB 等を活用した商談機会の創出に取り組むとしています。ウイズコロナを見据えた新規販路の開拓や、商品採用の支援など、システムづくりと商品開發生産体制の向上などの支援について、事業所に積極的に情報発信をすべきと考えますが、ご所見を伺います。

5：浜田漁港周辺の活性化について

H28 年に登録された「みなとオアシス浜田」は今年で7年目に入ります。みなと周辺エリアの活性化も含めた取組はどこまで進んでいるのでしょうか。昨年「はまだおさかな市場」がリニューアルオープンしましたが、漁港周辺エリア活性化について、庁内検討組織である浜田漁港周辺活性化プロジェクトの動きが見えませんが、現在の取組状況を伺います。

6：観光・交流の推進について

① 好評のプレミアム付き「浜田飲食・宿泊応援チケット」の発行は第4弾まで発行されていて、これまで消費喚起につながりました。島根県も「まん延防止等重点措置」終了後の県内経済の回復を後押しするとして、特典付き食事券を独自発行するとしています。本市も第4弾の使用期間終了後も、市民に喜ばれた政策は、引き続きプレミアム付き応援チケットの発行を続けるべきだと思いますが、ご所見を伺います。

② 美又温泉は天然の保湿成分日本一で、効能は折り紙付きです。これまでいろいろ温泉を核とした戦略やイベントを打ってこられましたが、思うように誘客増にはなっていません。島根県と連携して新たに取組む「美肌観光事業」の事業内容と効果を伺います。それと提案ですが、2年間以上コロナ禍で心身とも疲れ切っている浜田市民に、アフターコロナを

見据えて、温泉の利用促進と市民にリフレッシュしていただくためにも、プレミアム付き入浴券等を発行できないか、ご所見を伺います。

- ③ 当市には北前船寄港地「外ノ浦」や「石見神楽」の二つの日本遺産ストーリーがあり、石州半紙はユネスコ無形文化遺産、鉄道遺産の広浜鉄道もあります。特に石見神楽は構成文化財であり、市内外から親しまれている伝統芸能で浜田の観光・交流の柱です。これまで文化的な所は教育委員会、観光的な所は観光交流課で分けていましたが、それぞれ要素があるものを、一元化、ドッキングさせて、「守り・育て・生かす」など日本遺産を含めた、文化財の保護も含めた、(仮称)遺産振興推進室を本気で設置するべきだと思いますが、ご所見を伺います。

7：企業誘致と雇用の確保について

石油・天然ガス開発の(株)インペックスが浜田沖での資源調査に向け、子会社「インペックス浜田沖開発」の現地事務所を立ち上げられました。今年に入り20～30人のスタッフが市内のホテルに寝泊まりし、試掘調査を実施されています。弁当や資材の注文を市内業者に注文され、コロナ禍で売り上げがままならない中、関係業者は大変助かっていると聞きました。これからも浜田沖開発に聞き取り調査し、関係業者と連携を密にして、支援していくべきだと思いますが、ご所見を伺います。

8：「応援企業認定制度」の内容について

労働不足を補完できる女性の雇用は、企業経営の重要な戦略となっています。様々な分野において働く女性から、子供の成長に伴う急な病気や学校事情など、休み辛い窮状を聞いています。応援企業認定制度が目指す目標と方策について伺います。

9：ヤングケアラー支援の取組について

ヤングケアラー支援に対する市の迅速な対応と取組姿勢に大変期待しています。適切な支援につなぐには、正確な実態把握と意識の醸成が重要であります。広報はまだやホームページに掲載されましたが、児童生徒や教職員への周知だけでなく、市民全体の認知度向上のための普及・啓発の手段として、公共施設、各種掲示板等への掲示が有効と考えますが、実施の考えについて伺います。

10：独居の高齢者支援について

団塊の世代を中心に独居の高齢者が増えています。高齢者は困窮状態に陥っても、誰かに援助を求めることに消極的な人が多いため、もっと援助を求めやすい環境整備と支援が必要と思いますが、ご所見を伺います。

1 1 : 認知症対策について

超高齢化社会を迎え、認知症対策は大変重要な課題であると感じています。
代表疾患であるアルツハイマー型認知症は 40 歳をすぎてからどんどん増えてくる病気で、40 代から予防も考えないといけないとされています。
認知症予防に効果があると言われている。早期発見、サロン活動、栄養管理運動など、浜田市としてどのように取り組んでいるのか伺います。

1 2 : 健康づくりの推進について

新型コロナウイルス感染症予防のため 3 密（密閉・密集・密接）の回避、テレワークの推進、少人数での飲食・外出など、日常生活に変化が続いています。
外出自粛により「コロナ太り」という言葉が一般化し、メタボリックシンドロームになる人（生活習慣病）の増加が懸念されます。市民の平均寿命、健康寿命とも県下では低い位置にあり、介護認定を受ける人の割合が高いなど、多くの課題が指摘されています。生活習慣病を抱えている方の対策、そして各種健診の受診率の低さが浜田市では前々から指摘されています。その分析から、受診率向上に向けての取組を伺います。

1 3 : 通院等でホテル利用の場合の助成制度について

中心市街地から遠距離にあり移動手段の乏しい地域では高齢化が進むなか、通院や買い物対策は喫緊の課題です。浜田医療センターや駅周辺の医療機関へ連続して通院の必要がある場合のホテル利用に対する補助制度の検討について、進捗状況を伺います。

1 4 : 市職員のメンタル健康管理と働き方改革について

職員自身が心身とも健康であり、業務量に応じた適切な人員配置がなされ、職務に専念できる労働環境がなくては良質な市民サービスの提供もできません。過労死ラインを超えるような時間外労働を防ぐための適切な労働時間の管理についての現状を伺います。また、メンタル不調の要因になりかねないカスタマーハラスメント対策として庁舎管理規則見直し等、実施後の効果、検証について伺います。

1 5 : 学校教育の充実について

浜田市立第四中学校については、10 年以上前から、今日を見通し、地域挙げて、幼・小・中一貫校や小・中一体型校舎建設を同僚議員が要望して参りました。そろそろ、結論付けする時期だと思いますが、ご所見を伺います。

16：歴史・文化の伝承と創造について（施政方針）

- ① 歴史文化保存展示施設については、様々な意見もあり「一旦立止まる」こととし、事業名を「浜田郷土資料館建替え整備事業」として、資料館の現状や建替え整備の必要性について、今後市民のみなさまに、丁寧に説明していきたいとのことである。事業名が代わろうが必要性を認めるものであるので、しっかり「建替え整備」という趣旨を伝えていただき、進めていただきたいと思います。今後どの様に住民に説明をしていくのか、スケジュール等を伺います。
- ② 文化財の保存活用について、市長は、施政方針の中で「未指定文化財も含めた地域における文化財の保存活用を促進するための計画作成に着手」とするとされました。特に、未発見の未指定文化財を保存活用していくためには、早々に計画を立案し、計画を実行に移す必要があると考えますが、計画完成の時期及び計画策定までの手順について伺います。

17：排出ゼロへ、地域から進める脱炭素社会の推進について

- ① 日本は2050年カーボンニュートラルを掲げています。浜田市においても持続可能な地域を目指す取組を加速していかなければならないと思います。その対策を検討する上で浜田市のCO₂の排出量や浜田市での再生エネルギーの資源量について現状把握がなされているのでしょうか。環境省のデータ分析から2015年度の浜田市のCO₂排出量は年間52万1千トンとなっており、約半分の26万6千トンが民生部門の排出となっています。それに対して様々な政策を取って行く事が必要だと思います。またエネルギー資源としてこの度、浜田漁港高度衛生管理型7号荷さばき所の屋上に再生可能エネルギーの導入「オンサイトPPA事業」の報告もその一環だと認識しています。
市民や企業、団体等への脱炭素社会に向け、どの様な取組を進められるのか伺います。
- ② 災害時の電力供給、公共施設の省エネ・再エネの取組、住宅の太陽光設置・蓄電池の補助制度の見直し、EV車乗り換えの補助、既設太陽光10年問題の相談体制など、どう戦略をたて取組んでいくのか伺います。

18：公共交通の充実について

- ① 令和3年度から導入された地域や交通事業者と連携して、高齢者等の交通弱者に配慮したドア・トゥ・ドア型の交通手段「あいのりタクシー」がありますが、これまで利用者からはいろいろなご意見を伺っていると思います。これらの意見等をふまえ、改善点や拡充等どう支援していくのか、また、国や県にタクシー事業の継続に向けた支援制度の創設を要望とあるが、どんな要望なのか伺います。
- ② 「敬老福祉乗車券交付事業」については、第1期、第2期ともに交付率は同様の推移であり、利用者からは大変好評を得ていると聞いています。その一方、交付率が増えていな

い原因等分析されているのでしょうか。また、高齢者からはコロナ禍での「まん延防止等重点措置」が適応されており、解除されても当分の間、外出を控えたいという声があり、購入した券が使いそうにないと言われる方がたくさんおられます。3月末の使用期限が迫っている第2期の延長ができないか、延長した場合の期間や広報はどうするのか伺います。

19：浜田駅周辺整備について

浜田商工会議所の移転が福屋跡に計画されています。地理的に駅前銀天街と駅北地区、県立大学、朝日町商店街、紺屋町商店街との結節点に位置します。

集いの場、コワーキングスペース、緩やかなチャレンジショップ、など賑わいづくりに大きな可能性を秘めていますが、ご所見を伺います。

20：防災訓練の市民参加について

これまで、それぞれで行われる防災訓練を見ています。しかし市民参加があまりに少なく、いざという時に本当にスムーズな行動ができるか疑問に思っています。特に夜間での防災訓練は、災害や避難は夜間に集中しているにもかかわらず、その時間帯に訓練する自治体は全国的に少ないと思います。参加できる人だけでも実施するよう検討していただきたいのと、また、参加が難しい方には、地域のまちづくりセンターや集会所に住民の方を集めて、机上での訓練やワークショップで防災訓練を考えてもらう方式も一考であると考えます。浜田市として、市民の防災意識の高揚と地域防災力の向上を図る為、防災訓練のあり方と市民参加を促進させる方策について、ご所見を伺います。

21：米軍機飛行訓練中止を求める取組について

静かな生活環境はこの地域にとっては貴重な宝です。戦闘機が頭上を飛び交う光景は以前にはなかったことですが、今や日常となりつつあります。乳幼児はおびえ、静かな環境の中で勉強したいという受験生や学生達の望みを日々壊し続けています。飛行訓練中止を求める活動を継続されているにもかかわらず、改善されない理由と今後の方針について伺います。

22：ジェンダーの問題について

3月8日は国連が決めた「国際女性デー」。女性への差別をなくしていくことを目的に決められました。解決しなければならない問題がジェンダーに基づく偏見や不平等があると言われていています。浜田市議会では、「はまだ市民一日議会」で人権教育としての「性教育の重要性」の発言をうけ、議員間での意識醸成を図る必要があるとのことで、「性的マイノリティ及びハラスメント」について議員研修会を開催したところです。ジェンダーの問題について、市長の認識を伺います。

23：中山間地域対策について

中山間地域振興枠5年のうち10億円を予算処置するとありますが、特に中山間地域では、異常気象などにより危険木・支障木緊急撤去事業が増えており、住民は不安を抱えながら対処順番を待っておられます。今の予算処置とは別に、少しでも拡充して早く対処してあげることができないか伺います。また、コロナ禍で外出ができない買い物もままならない高齢者が増えてきており、今後、見守り移動販売支援事業や買い物代行助成等を、中山間地域に限らず全市に広げていくためにも、民間業者が参入しやすい支援制度を構築するべきと思いますが、ご所見を伺います。

続いて、岡田泰宏教育長の教育方針に対して質問致します。

24：学力育成対策について

- ① 令和3年度全国学力テストにおける小学校の国語・算数の平均値の合計による都道府県ランキングによると、島根県は北海道と奈良県と同じ130点で44位、中学校においては115点で46位であると報じられています。浜田市の場合は、島根県の平均値の合計に対して小学校で-5点、中学校で-3点、さらに低い状態です。

松江市のように小中学校毎に学力テスト及び学習状況調査結果について分析・対策シートを作成公開して、課題を明確にして対応策を講じている市もあります。

浜田市においても、細分化した分析により現状を捉え授業改善策を模索する必要があるのではないのでしょうか、学力育成に向けた認識を伺います。

- ② 学力育成は、人格形成や進路保障にも繋がる大事なことです。それだけに学校だけでなく学校に関わる大人がこの状況を理解・連携し出来る協力をしていくことが重要です。とりわけ放課後の児童クラブ等における時間は、有効に活用すべきと考えられますが認識を伺います。
- ③ 新型コロナ感染拡大防止の観点から学校の休業措置を執られましたが、学力育成の観点からみると授業時間は削減され、休業中の家庭での宿題等への取組は本人の自己管理能力と親のサポート力によってバラツキを生じます。授業時間の補充等の事後対応に向けての考えを伺います。

25：教職員の働き方改革の一環について

「休日の部活動の段階的な地域移行」の検討にあたっては、様々な項目について課題を洗い出し準備する必要があると考えますがその認識を伺います。

26：歴史・文化の伝承と創造について（教育方針）

教育長は、教育方針の中で文化財保存活用地域計画の作成にあたっては「各地域にどのような文化財があるか、情報の把握から」取組むとのことでしたが、情報源として地域の郷土史研究家やまちづくりセンターからの情報は当然のことしながらも、古民家の押入の奥から出てきた墨書きの文書にも歴史的な価値があるかもしれません。また、街角の祠やお地蔵さんにも文化的な価値があるかもしれません。市民が歴史・文化に対する価値に気付くための意識を啓発して、高めなければ価値に気付かず情報は得にくいし、みすみす価値のある文化財を毀損してしまう恐れがあります。可能な限りの手法で市民への啓発に努めるべきと考えますが、ご所見を伺います。

27：生涯スポーツの振興について

サンビレッジ浜田アイススケート場の問題についてお伺いします。

おりしも2月4日から北京冬季オリンピック・パラリンピックが開催されました。さまざまな競技で盛り上がりましたが、浜田市のサンビレッジアイススケート場は平成8年に完成し現在26年経過しています。合併後の行財政改革推進で公共施設再配置計画が策定され、現在実施計画で進んでいます。利用者数の低迷で収益率が落ち込み、機器の更新もできず、維持管理費が膨らんでいる事は承知しています。

西日本でも数少ないカーリングができる施設で注目されていますが、一昨年からのコロナ感染により営業期間も短く、施設利用者の増加は見込めない状況の中、廃止の方向性は変わらないのか、ご所見を伺います。